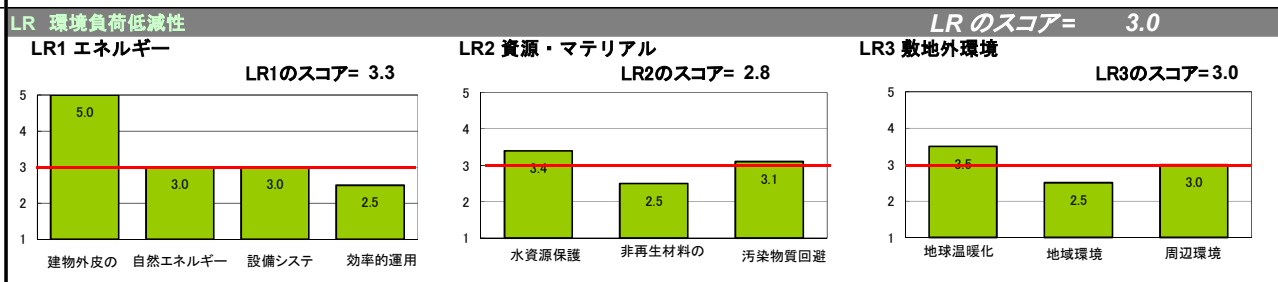
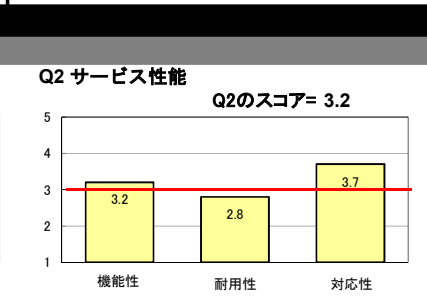
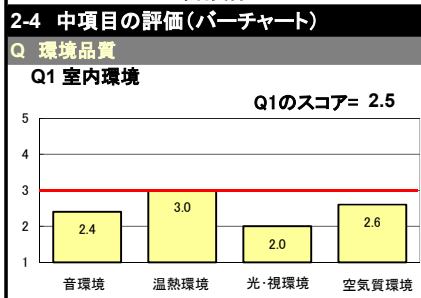
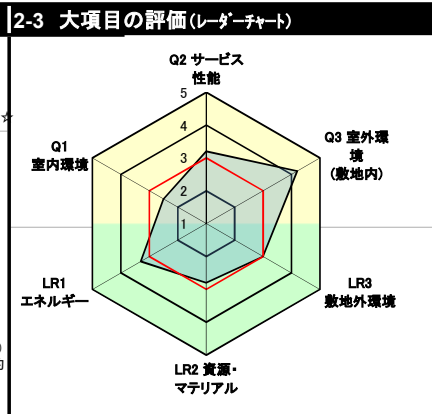
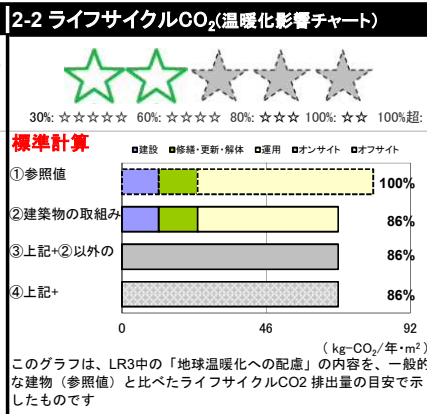
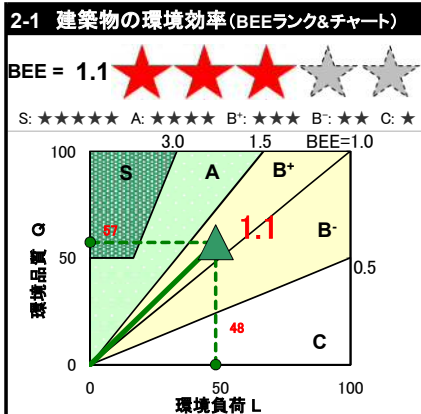




1-1 建物概要	
建物名称	(仮称)天使大学9号館新築工事
建設地	北海道札幌市東区北13条東3丁目30番73
用途地域	準住居地域、第1種住居地域、準防火地域
建物用途	学校
竣工年	2020年2月 予定
敷地面積	101,405 m <sup>2</sup>
建築面積	1,298 m <sup>2</sup>
延床面積	5,353 m <sup>2</sup>

階数	地上6階
構造	RC造
平均居住人員	950 人
年間使用時間	3,360 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2018年11月13日
作成者	
確認日	2018年11月13日
確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)  
 (仮称)天徳大学9号館新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)  
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.2
<b>1 機能性</b>				3.2	0.40	-	3.2
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				-	-	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画			-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				3.0	0.50	-	
1	広さ感・景観 (天井高)			1.0	0.50	-	
2	リフレッシュスペース				-	-	
3	内装計画		インテリアバースでの事前検証がなされている。	5.0	0.50	-	
<b>1.3 維持管理</b>				3.5	0.50	-	
1	維持管理に配慮した設計		防汚性に優れた仕上材を採用している。	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				2.8	0.30	-	2.8
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				2.8	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		省資源	2.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		省資源	3.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		省資源	3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		省資源	3.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		省資源	3.0	0.20	-	
<b>2.4 信頼性</b>				2.6	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	3.7
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		主要室に十分な階高を確保している。	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		荷重計画は4500N/m2以上のゆとりのある計画となっております。	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		機器更新時のための仮設スペースがある。	4.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	4.2
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	<b>緑化</b>	敷地内樹木、植栽を極力残した上で、新たに植樹する計画。	<b>4.0</b>	0.30	-	-	4.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	<b>緑化</b>	敷地内既存建物や、敷地周囲の建物と調和するような色合いの外壁としている。	<b>5.0</b>	0.40	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	<b>雪処理</b>	中庭を設け豊かな、中間領域を形成。	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	3.0
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	<b>省エネ</b>	敷地内にある既存樹木、植栽を極力保存する計画としている。	<b>5.0</b>	0.20	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>	<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.10	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.80	<b>3.0</b>	0.50	-	-	3.0
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	2.8
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型大便器、洗面の自動水栓、擬音装置	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.5</b>	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減	<b>省資源</b>		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	<b>省資源</b>		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	<b>省資源</b>		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	<b>省資源</b>		3.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.1	0.20	-	-	3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用		4スター規格品を採用。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.33	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	省資源	複層ガラスの使用による熱損失抑制。 LED照明を主体とした照明計画によるエネルギーの効率化。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	ゴミの分別回収促進、効率的な除排雪のための空間の整備を行っている。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要					
建物名称	(仮称)天使大学9号館新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B <sup>+</sup>
建物用途	学校				
延床面積	5,353.5 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b>	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下          ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下          ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下          ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下          ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	<b>省資源等</b>	
	<b>緑化</b>	
	<b>雪処理</b>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.5 最低点 6.6 )		<b>合計</b>		<b>14.7点</b> /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	0.7 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.0 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.6 最低点 7.6 )		<b>合計</b>		<b>13.2点</b> /23.6点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.5 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0 /1.8
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.5 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.2 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		<b>合計</b>		<b>12.0点</b> /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	3.6 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.0 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.4 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b>		<b>3.0点</b> /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数